

車両規則書 【令和6年】



ライディングスポーツ生駒杯

第1戦5月12日(日)

第2戦7月14日(日)

第3戦10月13日(日)

第4戦11月24日(日)

開催クラス

M / R33 / R35/ R37/
FP4-ST / 74Daijuro
74ビギナー / 74バンビーノ /
NSF100HRCトロフィー /
HRC GROM Cupアドバンス
HRC GROM Cupルーキー

その他特別開催クラス 開催決定時に告知

125スクーター / ネイキッド / Rクラス / FP4-STビギナー



Instagram



X



facebook

2024年度・車両総合規定 (全ての車両に該当する規則)

◦ 2023 モトチャンピオン杯秋ヶ瀬サーキット様から引用

※Mクラス、SP12 クラス、車両規則に関しては◦ 2023 関東ロードレース選手権桶川スポーツランド様から引用。

但し、共通でない部分もあるので注意すること。

レース前車検での主催者側の判断には、その解釈のすべてに対していかなる場合でも参加者は抗議を申し立てられない。

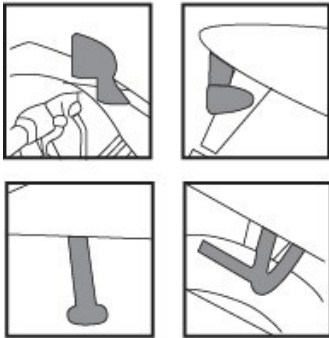
車両規則に反したものは、主催者判断で当該シリーズの次レース出場停止処分を課す場合がある。

- [1] ブレーキは前輪後輪それぞれ独立した、効果的な制動力を持つ物を備えなければならない。
- [2] ハンドルは左右一杯に切ったときにライダーの指を挟まないようにハンドルと燃料タンク、カウリング等に 間隔を保持すること。また、ハンドルの先端にはバーエンドもしくは先端がカバーされるタイプのグリップ が装着されている事。アクセルは手を離した際、自動で戻らなくてはならない。
- [3] クラッチレバー・ブレーキレバー・グリップレバーは変更可。ただし、レバー先端は丸み(最低直径 14mm 以上)を持たせなければならない。
- [4] ステップバー・ペダル類の先端は、安全上先端が中空でなく、丸みを帯びた形状でなければならない。
- [5] 走行中に明らかに路面と車両の一部が接触している車両に関しては、その部分を切除する等の対策を施すこと(サイドスタンド、ステップ周り、カウル等)
- [6] 取り外さなければならない物は、バックミラー・スタンド類・フロントバスケット・リヤキャリア等。 また、ヘッドライト・テールランプ・ウィンカー等は、取り外すかテーピングを施さなければならない。
- [7] カウルなどをはずした場合は、全てのカウルステーもはずす事。また、フレームの加工は最小限の不要ステーの切削のみ可。 アッパーカウルを装着する車両は安全の為スクリーンを必ず取り付けなければならない。
- [8] オイルドレンボルトおよび給油口(エンジンオイル・ミッションオイル)は、必ずステンレスワイヤーを用い、ボルトに通して緩まない方向に引っ張り、端をフレーム等に固定してワイヤーロックを施すこと。ドレンボルトの改造、変更は可。
- [9] 燃料タンクにブリーザーパイプを取り付ける場合は、必ず透明または半透明のキャッチタンク(100cc 以上)を取り付けるか、ワンウェイバルブを取り付けなくてはならない。
- [10] オイルキャッチタンク・燃料キャッチタンク・ラジエターリザーバタンクは、走行前に空にしておくこと。
- [11] 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような改造はしてはならない。
- [12] ラジエターを装着している全ての車両は、転倒時に内容物が漏れ出しにくい構造のリザーバタンクまたは、キャッチタンク(100cc 以上)を転倒時に影響のない場所に強固に取り付けなければならない。 ラジエターに不凍液が入っている場合は、水または水とアルコールの化合物にとりかえておく事。サーモスタットの取り外しは可。
- [13] キャブレターからのオーバーフローパイプには、透明または半透明のガソリンキャッチタンク(100cc 以上)を転倒時に影響のない場所に強固に取り付けなければならない。
- [14] ゼッケンベースは、縦横 20cm 以上の物をアッパーカウルとシートの両サイド、合計 3ヶ所に設けなければならない。ただし、やむをえない場合は走行前車検にて合格となったもののみ使用可。カウル小型化に伴い、シートカウル上 1 点とアンダーカウル両面のゼッケン表示も可。
- [15] ゼッケンの字体は、ゼッケンベース枠内に明記し、走行前車検で合格となったもののみ使用可。
- [16] F/R アクスルシャフトの固定はロックナットまたは割りピンを使用すること。アスカルシャフト及スイングアームピボットボルトにアルミ・チタン・マグネシウムを用いる事を禁ずる。
- [17] 互換性が認められているクラス以外の車両は、原則として原動機型式およびフレーム型式の異なる車両の部品を使用することが出来ない。
(型式とはメーカーが定めた機種に属する原動機番号、フレーム番号を言う)例) NSR-50 の車両に NS50-R、NS-1 の部品は使用不可 / 94NSR-50 の車両に 95NSR-50 の部品は使用可。
TZM-50R の車両に TZR-50 の部品は使用不可 / 年式により異なる原動機番号を持つ本体・部品は、同車種フレームに限り使用を認める。
ただし例外として NSR50・mini/NS50R・F/NS-1 のクランクケースとラジエターに関しては部品の互換性を認める。
- [18] 主催者が戦力・技術的に出場を認めた車両は特別参加が可能。
- [19] エンジンオイルやフォークオイル等、油脂類の変更及び使用量の調整は可。
- [20] チェーン駆動車両のチェーンカバーの取り外しは、フロントスプロケット側、リヤスプロケット側のどちらに関しても不可。ただしその機能を満たす同一形状のものへの変更、もしくはリヤフェンダーがチェーンカバーの機能を完全に満たしている場合は可。
- [21] チェーン駆動車両のスイングアーム下側には、チェーンとリヤスプロケット噛合部をカバーする強固なガードを取り付けること。その際のスイングアームへの溶接・穴あけ加工は可。
- [22] ガソリンタンクカバー及び滑り止めを使用する場合は、走行中にずれたり外れたりしない様強固に装着する事。ただし、タンク本体の状態を確認出来る様、脱着が可能である事。
- [23] 車体及び外装関連部品の塗装は可。改造変更が認められていないクラスのエンジン関連部品の塗装、剥離、表面処理等は一切禁止。
- [24] 純正品と同形状、同サイズ、同等素材のものに限り、社外製の補修用ブレーキディスクローター、フロントフォークインナーチューブの使用は可。

[25] ※スクーターの場合はフロントフォーク ASSY も可。

※ 車両規則に関して不明点や確認がある場合は、必ず主催者に連絡をして確認を取ること。

取り外さなければならない部品

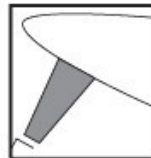


●ナンバープレート・ブラケット
取り外さなければならない

取り外すことができる部品

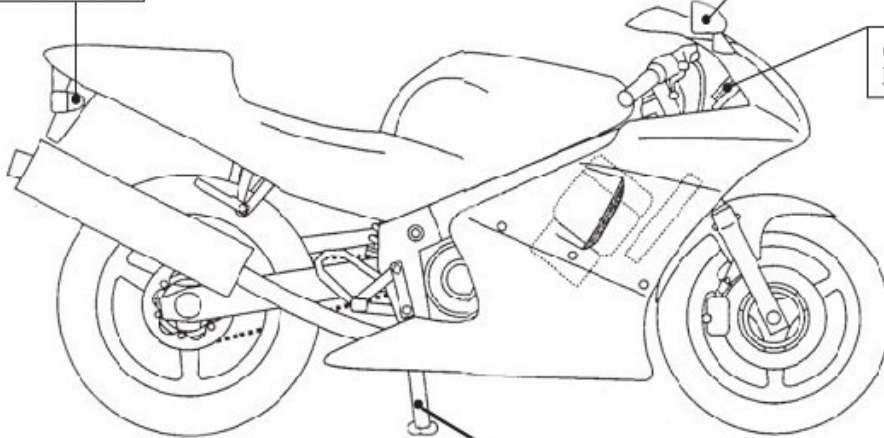


- ① 計器類と計器用ブラケットおよび関連ケーブル
- ② ホーン
- ③ ツールボックス
- ④ タコメーター
- ⑤ スピードメーター
- ⑥ ラジエーターファンと配線
- ⑦ サーモスタット
- ⑧ リヤフェンダー
- ⑨ チェーンカバー
- ⑩ リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリ
- ⑪ エアクリーナーエレメント
- ⑫ 別体（ボルトオン）のライセンスプレート
- ⑬ スターターキックアーム



●バックミラー等の保安部品
取り外さなければならない

●スピードメーター・タコメーター
取り外すことができる



オイルドレンボルトは必ずワイヤロックすること!!

●スタンド・同乗者フットレスト
取り外さなければならない

MFJ 国内競技規則から引用

Mクラス

© 2023 関東オートモニ選手権 桶川スポーツランド様

ミッション付きノーマル車、市販レーサーを除く一般公道走行用の車両でホイールの直径が 12 インチ以下、上記でホイールの直径が 13 インチ以上のマシンも該当する

原則

車両の排気量は、2st-50cc 未満、4st-100cc 未満とする。例外として NSF100・NSR mini・NS50R・TZ50・KSR110・GROM・Z125 の参加を認める。ピストンはメーカー純正であっても、オーバーサイズの使用は禁止とする。(KSR110・GROM125 を除く)なお、戦力バランスを考慮しシーズン中に規則が変更される場合がある為、当該 規則には注意する事。

車体

- [1] フレームの改造・変更は不可。ただし、サイドスタンド取り付け部は、そのステーを最端部より 40mm 程 度削除してある事が望ましい。(17inch 車両は SP50 規定 -2 を適用)
- [2] 不要ステーの削除、改造、およびメーターやゼッケン、カウル、シート固定のためのステーの追加及び改 造は可。ただし、どの場合も先端は丸みを帯びた形状である事。
- [3] ハンドル切れ角調整のための改造、パーツの追加は可とするが、その場合のハンドル切れ角は最低 30° 以 上を確保する事。
- [4] ハンドルバー及びビクランプ、トップブリッジの改造・変更は可。また、ステアリングステムベアリング及びベアリングレースの改造、変更は可。
- [5] ステアリングダンパーの使用は可。ただし、ステアリングストッパーとしての兼用は不可。
- [6] ステップバー及びペダル、ステップホルダー、ポジションプレート、リンクなどの改造・変更は自由であるが、容易に操作できる位置でなければならない。

形状は車両規定 4 にしたがって処置されている事。

- [7] ガソリンタンクは、市販時の状態の物で改造・変更は認めないが、タンクカバーの使用、フューエルコック及びフューエルホース、給油口の改造・変更は可。
ただし、車両規定 23 を満たしている事。
- [8] 転倒時のダメージを軽減する為の、アクスルガードやプロテクティブコーンの使用は可。ただし、いかなる場合も先端が丸みを帯びた形状であり、ボルト・ナットが緩まない適切な処置を施してある事。(総合 規定 -16 参照)
- [9] メーター類の追加、改造、変更、取り外しは可とし、それに伴うセンサーやケーブルの追加や取り外しも可。また、ラップタイマーやデータロガー、簡易 GPS の装着も可とするが、脱落無き様強固に取り付け、走行の支障をきたさぬ様十分注意する事。テレメトリーの使用は不可。
- [10] ボルト・ナットの変更は可。ただしアクスルボルト、スイングアームピボットボルト及びエンジン内部については不可。アルミやチタン製のボルト・ナットをエンジン関係とブレーキ関係に使用する事は、(ブレーキフルード系統、ドレーンボルト、クラッチケースカバーは除く)安全を考慮し全て不可。チタンを使用したパーツはハイコスト化に繋がるため今後制限される可能性がある。使用及び作成には注意すること。
- [11] フレームやマフラーにおける、クラックや破損部分の溶接による最小限の補修は可。ただし、性能向上を目的とした物は不可とし、その判断は主催者に一任するものとする
- [12] NSR50/mini と NSF100 の、エンジン関連以外の部品の互換性を認める。(17inch 車両は SP50 2st 車両規定 -5 を適用)
- [13] NS50-F/R の部品の互換性を認める。また、左記車両と NS-1、ape100、XR100-M/R の車体関連部品の互換性を認める。
- [14] スイングアーム後端の、チェーンアジャスターボルトの不要部分の切除は可。

外装

- [1] カウルが市販時に装着されている車両の、社外品への交換は可。ただし、スクリーンを含むカウルの取り外しは不可。(17inch 車両は SP50 2st 車両規定 -1 を適用)また 4st 車両のエンジン下部には、故障時等のオイル飛散に対応する為、そのエンジンに使用されるオイルの全量分を保持できるオイル受けを装着する事。(右図参照)この底面には、ウェット時に対応する為の水抜き穴の加工を施し、ドライの場合は漏れに対し有効なフタをしておく事。シートスポンジ・シートカウルの改造、変更は可とするが、転倒等の衝撃に耐えうる様強固に取り付けられている事。
- [2] フロントフェンダー・リアフェンダーの改造・変更は可。取り外しは、リアフェンダーは可とし、フロントフェンダーは、フルカウル装着車両のみ可とする。

サスペンション

- [1] フロントサスペンションの変更は不可。ただし、内圧調整のためのトップキャップバルブ、イニシャルアジャスター、ストロークセンサー、インナーパーツ(シートパイプ・スプリングなど)の改造・変更・追加及びスタビライザーでの補強は可。また、ダストシールの変更・取り外しは可。
- [2] フロントフォークインナーチューブは、一般市場価格にて純正品より安価な物に関してのみ変更を認める。ただし、純正同一形状及び同材質に限り、追加加工は一切禁止。
- [3] リヤサスペンションの変更は可。また、取り付けに伴うアダプターの使用は可とするが、十分な強度を持った物である事。
また、リヤサスペンションとマフラー間における遮熱板の追加・ストロークセンサーの追加は可。
- [4] NS50-F/R と XR100M、APE100 Type-D のボトムケースの互換性を認める。

ホイール・タイヤ

- [1] ホイールアッセンブリーの変更は不可。ただし、スピードメーターケーブル関連パーツおよびダストシールの取り外しは可。
- [2] ホイールサイドカラーの改造、変更は可。ただし、ベアリングディスタンスカラーの変更は不可。
- [3] ホイールエアバルブ及びバルブキャップの変更は可。
- [4] タイヤは一般市販されていて、通常ルートで購入出来る物のみ使用可。スリックタイヤおよび摩耗限度を超えた物、グルーピング(溝きり、カッティング)したものは不可。
ミニバイクレース専用タイヤの使用を認める。(S01/S02・KR337・KR410・TT72・KR345・12inch 車用レインタイヤ等)

17 インチ車両で 12 インチ車両と混走するクラスに参加する場合は、レーシングレインタイヤの使用を認める。

タイヤワックス剥離の為の、パーツクリーナー、アセトン、ホワイトガソリンの使用は可とするが、タイヤの性能や状態を故意に変更する(タイヤソフナーなど)処理は不可。

ブレーキ

- [1] ブレーキレバー(車両規定 -3 の適合品)、パッド・シュー、ブレーキオイル、ブレーキホース、パンジョーボルトの改造、変更は可。
- [2] パッドスプリングの取り外しは可。また、パッドピンブラグの取り外しは可とするが、安全上装着されている事が望ましい。
- [3] キャリパーガード・マスターシリンダーガードの取付け、及びそれに伴うボルトの変更は可。
- [4] リヤマスターシリンダーホースとオイルタンクが一体形状となるリザーブタンクレスキット及び、それと同等の機能を満たすパーツの装着は可。
- [5] ディスクローターは一般市場価格にて純正品より安価な物に関してのみ変更を認める。ただし、純正同一形状及び、同材質に限り、追加加工は一切禁止。(フローティングディスク等は不可)

- [6] NSF100, NSR50/mini, NS50-F/R の部品のブレーキ関連部品の互換性を認める。また、それに伴うディスクローターオフセットカラーの使用は可。

チェーン・スプロケットロケット

- [1] F/R スプロケット・F スプロケットボルト・ドライブチェーン及びチェーンサイズの変更は可。

電装

- [1] リミッターカット・CDI ユニット・ワイヤーハーネスの改造・変更は可。ただし、出荷状態に備わっていない機構が追加される物は一切不可。(電圧増幅装置等)
ワイヤーハーネスの改造に伴う、不要部品の取り外しは可。(スタンドスイッチ、ブレーキスイッチ等)ただし、ニュートラルスイッチスパーサーに関しては不可。
メインキーを取り外す場合は、誰でも容易に操作出来るキルスイッチを装着する事。
- [2] バッテリーの変更、取り外しは可。また、不要なステーター(充電)コイル及びコイルベースの切除、取り外しは可。ただし、エキサイター(点火)コイルの改造、変更は不可。
ステーターコンプに付随するハーネスの改造、変更は可とし、それに伴うステーターベースの切削加工を認める。ただし、ステーターベース固定穴の長穴加工は不可。
- [3] スパークプラグ、プラグキャップの変更は可。ただし、プラグコードの変更は不可。
- [4] NSR50/mini, NS50R/F, NS-1 のイグニッションコイルの互換性を認める。また、NSF100, XR100M/R, APE100 Type-D, CRF100 の電装関連部品の互換性を認める。
- [5] インジェクション仕様車の燃料及び点火時期、レプリミット調整を目的とした部品(フルコン、サブコン等)の使用は可。

エンジン関連

- [1] 始動機構(セルモーター・キックスターター等)と、それらの関連部品の取り外しは可。
- [2] 2st 車両における分離給油のオイルポンプ(オイルタンク等の関連部品を含む)の改造、変更、取り外しと閉止処理は可。
- [3] AC ジェネレーターカバー(クランクケース L カバー)とクランクケースの間に、カラー及びワッシャーを使用し熱対策を施す事を認める。
ただし、この場合使用されるカラー及びワッシャーは安全性を考慮し厚さを 5mm までとする。
- [4] クランクケースからブリーザーホースが出ている場合は、オイルキャッチタンクもしくはそれと同等の機能を満たす物を装備してはならない。
なお、その際使用されるホース及び本体は、高温にも耐えうる材質を考慮する事。ブローバイガスについては、吸気への循環方式とする。
- [5] エンジンを整備する際の、バルブの擦り合わせやシートカット及びバルブのリフェース加工(4st)、バリ取り、アタリのボカシ等最低限必要なメンテナンスは可。ただし、出荷時本来の形状を崩す様な加工は一切不可。追加のホーニング処理及び、鉄ヤスリ、砥石およびリユーター等を使用した加工は厳禁とする。パーツリストで COMP となっているパーツの、分解及び組み換えは改造とみなし不可。部品が単品でも発注出来る部分のみ交換可。その場合は、同一年式のパーツ同士で組み付けの事。(例 NSR50' 88 クランク等)
- [6] クランクケースベアリングの接着及びボンチ等による固定処理は可。ただし、処理が認められる箇所はベアリング挿入部外側とし、ベアリングクリアランス調整を兼ねる加工は一切不可。
- [7] ラジエーター本体の改造・変更は不可。ただし、ラジエーターカバー(シュラウド含む)、サーモスタットの改造・変更は可。(17inch 車両は SP50 規定 -6 を適用)
また、エンジン冷却を目的とした、ダクトやディフューザー類の追加は可。
- [8] クラッチプレート、フリクションディスクの改造、変更は可。ただしクラッチスプリング、クラッチセンター(クラッチボス)の改造・変更およびクラッチプレート、フリクションディスクの枚数の変更は可。4st 車両に関しては Ape50 のクラッチ関連パーツの流用を可とする。クラッチハウジングの段付き修正(ヤスリがけ)はメンテナンスの範囲とみなし可。
ただし、その場合処理が認められるのはフリクションディスク接触面のみとする。
- [9] KSR110 に限り、クラッチ関連パーツの改造、変更を認める。
- [10] ホンダ NSF100, XR100-M/R, APE100(Type-D), CRF100 のエンジン、マフラー、キャブレター関連部品の互換性を認める。ただし [シリンダー 12100-436-000] の使用は不可。(スカートを除くシリンダーハイトが※ 69.75mm 以下の物)※測定環境等による -0.1mm の誤差は許容範囲。
- [11] ホンダ NSR50 と NSR-mini NS50-F/R の部品の互換性を認める。ただし、下記特別規則表の 2 通りのみとする。
- [12] レギュレーションにて明記されていないパーツの互換性については、同一品番のものであれば可とする。
- [13] ガasket関連の改造、変更及び枚数の変更は可。ただし、シリンダーヘッドガスケットに関しては変更不可。
- [14] NS50-F/R に関しては下記表以外の純正部品の組み合わせを試験的に認める。また、それに伴うシリンダーヘッドガスケットの改造、変更及び枚数の変更は可。
- [15] タコメーターギアの取り外しと、それに伴う閉止処理は可。
- [16] 2ストローク車両のピストンにおける、セカンドリングのエキスパンダの取り外しは可。
- [17] 2ストローク車両のバルンサーアイドルシャフトにおける、バックラッシュギアの改造、取り外しは可。
- [18] 2ストローク車両の他年式パーツ流用時における、クラッチリフターロッドの改造は可。

NSR50 及び NSRmini の組み合わせ表(部品番号末尾)

	組み合わせ 1	組み合わせ 2
シリンダーヘッド	GT4-000	GT4-010 GT4-970
ヘッドガスケット	GE2-000 GE2-003 GE2-013	GAA-003
シリンダー	GT4-000 GT4-710	GE4-000 GE4-710 GE4-970

吸排気関連

- [1] キャブレターは、ジェット類、ニードル等のセッティングインナーパーツの変更、およびインテークチャンバーの取り外しと、その後の閉止処理のみ可。
 - [2] エアクリナーボックスおよびエレメント、クーリングダクト、キャブガードの改造、変更、取り外しは可。ただし、密閉されたラムエア BOX の使用は不可。
 - [3] エアファンネルの取り付けは可。ただし、キャブレター本体を無加工で取り付けられるものに限る。
 - [4] スロットルワイヤー及びスロットルグリップ(ハイスロ KIT 含む)の改造、変更は可。
 - [5] マフラーに関しては、車体 -11、エンジン関連 -10、SP12 クラス 2st 車両規則を参照。
 - [6] YAMAHA TZM50R TZR50R RZ50 について、キャブヒーティング機構の取り外し(ホースのみ)と、その後の処理を認める。
 - [7] インレットパイプ及びインシュレーター(ガスケット含む)における、純正他年式間での組み合わせは自由とする。
 - [8] NS50-F/R に関しては、キャブレターの社外品への変更及びそれに伴うスロットルバルブ、インテークマニホールドの変更を認める。
- ただしその場合のベンチュリー径は 20Φ以下とし、追加加工を施すことは禁止とする。(PE20/PC20/VM20 等) VM20 取付にあたってのスタッドボルト干渉部分の最少限の切削加工を認める。

上記に記載されていない改造、変更は一切不可とし、その他に関しては変更が認められた各クラスの規定を遵守する事。

純正部品においては、パーツリスト記載の部品番号によって市販されている物を使用すること(ベアリング等)

SP12 クラス 2st 車両

© 2023 関東ロード選手権 桶川スポーツランド様

2st ミッション付準改造車。ホイールの直径が 12 インチ以下の車両

- [1] マフラーの改造・変更可。ただし、音量規制に適合している事。
 - [2] サイレンサーは、リヤタイヤの垂線より後ろに突出してはならない。なお、テールエンドパイプは水平であり、エンド部板厚が 2mm 以上ある物が望ましい。
- ※純正部品欠品措置として、シーズン中に同メーカー多車種部品の流用を認める場合がある。

上記以外の改造・変更については、総合規定・M クラスに準ずる。

SP50 クラス 2st 車両

2st ミッション付準改造車。ホイールの直径が 12 インチを超える車両。

- [1] カウルは市販時に取り付けられているものか(オプション含む)同一形状のもののみ可。シート以外のカウルの取り外しは自由とするが、その場合は F フェンダー を装着していること。
- [2] フレームの改造は不可。ただし、シートレール後端と、ステップ位置変更に伴う部分においてのみフレームのカットを認める。
- [3] NS50R 型式(S50R)と NS50F 型式(AC08)の部品互換性を認める。ただし、NS50R のシリンダーを使用する際は、シリンダーヘッド・ヘッドガスケットも当該車種品使用し、NS50F のシリンダーを使用する際は、シリンダーヘッド・ヘッドガスケットも当該車種品を使用する事。
- [4] NS50F/R への NSR50/mini・NSF100 フロントマスターシリンダーの使用及び、オフセットカラーを介しての、NSR50/mini・NSF100 の F プレーキディスクの使用を認める。

(Mクラスブレーキ規定 -5 を適用)

- [5] NS-1 の車体関連部品の互換性を認める。また、F ボトムケースに関しては、XR100-M / APE100Type-D の流用を認める。
- [6] NSR-mini のラジエターの流用と、それに伴うステー、ホースの改造、変更を認める。
- [7] 125cc 以下の東南アジア製アンダーボーンフレーム車両の参戦を認める。(WAVE125 等。その他車種は主催者に確認) 上記車両で参戦する場合のみクラッチ関連部品の改造、変更を認める。

上記以外の変更、改造については総合規定・Mクラス・SP12 クラスに準ずる。

SP/SP50 クラス 4st 車両

© 2023 関東ロードレース選手権 桶川スポーツランド様

ミッション付 100cc4 ストローク準改造車 (NSF100/Ape100/XR100M/NSR 4st コンバート仕様車 /NS50R 4st コンバート仕様車等)

- [1] キャブレターの改造、変更、及びそれに伴うマニホールドの改造、変更は可。また、ジェットやニードル、スロットルバルブの改造、変更も可。
- [2] NSF100 純正キャブレター (PD22) およびキャブレター口径 (ベンチュリー口径) 22 φ 以下の車両に限り、ハイカムの使用を認める。ただし、その場合はカムホルダー、ロッカーアーム等ヘッド周りのパーツを無加工で取り付けられる物である事。バルブタイミング調整を目的としたカムスプロケットの最小限の長穴加工は可とする。PD22 のチョークバルブの取り外し及びその取付穴の閉止処理の可。また、PD22 を使用する場合のインテークマニホールドの改造、変更は可。PD22 の国内純正仕様品にのみ装着されているメインジェットホルダー (16168-382-014) の取り外しは可。
- [3] イグニッションコイルの改造、変更は可。
- [4] スパークプラグ及びプラグコード、プラグキャップの改造、変更は可。
- [5] フライホイールの改造、変更は可。ただし、加工する際は最低限の耐久性を損なわない様十分注意する事。安全性を考慮し、フライホイール外周肉厚が 9.5mm 以上で、側面においては純正状態との高低差が 5.5mm 以内であること。インナーローターへの変更は不可。
- [6] オイルクーラーの装着は可。またそれに伴うヘッドカバーおよびクラッチケースカバーの改造、変更は可。
なおその際使用するホースは、耐熱、耐油性を満たした物で、ホースバンド等でしっかりと固定する事。
- [7] オイルポンプの改造、変更は可。また、それに伴うオイル通路の拡張及び閉止加工は可。
- [8] クランクケース内圧コントロールバルブの使用は可。
- [9] L クランクケースカバー (AC ジェネレーターカバー) の改造、変更は可。またクランクケースに関しては、エンジン換装時にフレームとの干渉を避ける為の最小限の切削を認める。
- [10] 2st 車両のフレームに 4st 車両のエンジンを搭載する際は、それに伴うエンジンブラケットやステーの追加を認める。ただし材質にチタンを用いる事は不可。
- [11] フレームは原則的に出荷時の状態を基本とするが、エンジン換装やクラック対策に伴う最小限の追加加工を認める。
- [12] SP50 車両のドライブチェーンスライダの改造、変更は可。また、チェーンテンショナー機構の追加も可。
- [13] GROM にて参戦する場合は、上記に加えインジェクター位置の変更を認める。ただし、インジェクターの個数は 1 個までとする。
- [14] SP50 車両に関しては、上記[2]の規則に則ったハイカムを使用する場合でも、ベンチュリー口径 22 φ 以下の社外キャブレターの使用を認める。

上記以外の変更、改造に関しては SP12・SP50 クラス規定に準ずるものとする

R33・R35・37・車種不問・タイム規制

- [1] 車両はミッション 2ST80cc、4ST125cc、スクーター 2ST100cc、4ST125cc 以下の一般公道走行用の車輛
- [2] タイヤサイズの制限なし。(スリックタイヤの使用も可)
- [3] 上記条項以外は【車両規則総合規定】内の安全規定は満たしていること。
- [4] S80 車両は参加不可とする。
レギュレーションは継続的に変化していくこととする。

FP4-ST クラス 125cc ノーマルスクーター準改造、一般公道用車両

- [1] 下記以外の変更、改造は一切不可。
- [2] 車両の排気量は 125cc 未満とする。(ピストンメーカー純正でも、オーバーサイズの使用は不可)
- [3] マフラーの改造、変更およびマフラーガードの使用は可。ただし音量に関しては【車両規則総合規定】を満たしていること。サイレンサーは車両の後方後向で、リヤタイヤの後端より 10cm 以上はみ出してはならない。サイレンサーのテールエンドパイプは水平が望ましい。
- [4] 車両排気音は 95dB 以下でなければならない。ただし、レース終了後は +1dB まで認める。
- [5] 駆動系 (クランクシャフト、クランクケースカバー、リヤホイールは除く) は、同一メーカーの 125cc スクーターの部品であれば流用を認める。

ただし、無加工、無改造で装着できるものに限る。ウエイトローラー及びボスワッシャーについては社外の流用を認める。

- [6] バッテリーの変更は可（リチウムバッテリーなど）。ただし、容量の大きなものやバイク用以外への変更は不可とし、セルスターターでエンジン始動できるようにしなければならない。
- [7] ブローパイホースは、シリンダーヘッドからエアクリナーボックスへ繋ぎ、内圧コントローラーバルブやワンウェイバルブなどは使用不可。
- [8] BW'S125において、社外製ハンドルへの変更を認める。
- [9] シグナスX、アドレスV125、BW'S125において無加工で装着できる同一メーカーの純正品に限り互換性を認める。
- [10] パーエンドキャップを取り付けるためのハンドルエンド部の加工は可能。
- [11] シート表皮、シートベース、シート内ウレタンの加工、変更は可能。
- [12] インジェクション車のECUの改造変更は不可。ただし、燃料調整機能及び点火時期調整機能エンジン回転リミッターの変更および解除ができる電子制御装置（サブコン、フルコンなど）の使用可。 ※ティグラ 125 に関しては戦力バランスを考慮しフルコンの使用は不可。 ※ティグラ 125 に関して、フルコンシステムを使用していると主催者が判断した場合は失格するものとする。（改定 2018/10/16）※レース終了後、上位入賞者の電子制御装置に購入希望者がいる場合 4 万円で売却しなければならない。
- [13] フロントフォークの突き出し加工、フォックスプリング部分のカラーの追加・フロントフォークオイルの変更は可。ただし、シートパイプやスプリングなどインナーパーツの加工変更は不可。フロントフォークとの干渉を避けるため、最小限のカバー類の切削は可。
- [14] 無加工で装着できる場合に限り、同一メーカー同一排気量のホイールの流用装着を認める。
- [15] アクセルワイヤー、アクセルグリップ部（ハイスロットル・ラバーR・L・パーエンドを含む）、オイルポンプ作用ワイヤーの改造変更は可。パーエンドが使えない場合は、非貫通タイプのグリップを使用すること。
- [16] フライホイール、ジェネレーター、空冷ファン、発電制御レギュレターの変更・取外しは不可としバッテリー充電機能を稼働させなければならない。
- [17] スタンドステー等の不必要なステーの切除は可能。
- [18] 開催方法は他クラスと混走となる場合がある。その判断は各主催者に従うこととする。
- [19] 安全性向上のため、アンダーカバーの加工および取外しは可。ただし、燃料タンクが直接路面に接触しないよう、純正カバーと同等以上の強度を有するカバーを取り付ける事（タイヤのみの固定は不可）。金属製が望ましい。
- [20] 安全性向上のため、駆動系カバーの加工は可。但し加工または転倒により開いた穴は必ず塞ぐこと。溶接が望ましい(最低限金属系粘着テープで塞ぐこと)。また駆動系カバーの取付ボルトは5本以上で固定する事。
- [21] 安全性向上と路面保護のためフレーム、エンジンなど走行中に明らかに接地している箇所に関しては強度に影響の出ない範囲で切除が望ましい。但し加工後の処理は安全性を考慮すること。
- [22] 適正な車検を行うため、車両パーツリストのない車両での参加を認めない。
- [23] キャブレター、スロットルボディの社外製パーツへの交換・変更は不可。また、純正装着品でも大口徑ボディを採用している場合（TIGRA125のφ30など）は、戦力バランスを考慮し、口径（ベンチュリー口径）をφ28以下とする。その際口径を小さくするためのリストラクターの追加は可・図5（ただし無加工で装着できるもののみとする）。
- [24] サイドカウルのカットは不可。ただし、あきらかに突出している部分に限りカットを認める（穴は塞ぐこと）
- [25] タンデムステップ部分、ステーのカットは可。ただし、穴は塞ぐこと。
- [26] ハーネス類の取外し改造などは可。ただし、メインキーの取外しは不可（移設は可）とし、メインキーによりエンジン停止の操作をできるものとする。また、無加工で装着できるアーシングケーブルの使用を認める。
- [27] エンジンを整備する際の、バルブの擦り合わせやシートカット及びバルブのリフェース加工（4st）、バリ取り、アタリのボカシ等最低限必要なメンテナンスは可。ただし、出荷時本来の形状を崩す様な加工は一切不可。追加のホーニング処理及び、鉄ヤスリ、砥石およびリユーター等を使用した加工は厳禁とする。パーツリストでCOMPとなっているパーツの、分解及び組み換えは改造とみなし不可。部品が単品でも発注出来る部分のみ交換可。
- [28] レギュレーションは、安全面、戦力バランス等を考慮し、上記パーツ使用許可など重要な部分も含め、猶予期間なく変更する場合がある。FI車は過渡期であることも鑑み、レギュレーションは継続的に変化していくこととする。
上記以外の改造、変更が必要と考えられる場合は、その都度主催者へ相談をする事。

4st125 クラス 4st ミッション付き 125cc 17 インチ

<http://www.sportslandikoma.jp/4st12517inch.pdf> © 2023 関東選手権 桶川スポーツランド様

注) 一部除く

4st ミッション付き 17 インチ 125cc インジェクション仕様車 (150cc 車両、その他車両については要相談)

ネイキッドクラス 2024 年～

- [1] ノーマルエンジンを使用し、キャブレターの変更、マフラーの変更等は禁止とする。
- [2] ステップやハンドル類の操作系パーツの変更は可。
- [3] タイヤはかならず、オンロードタイヤを使用すること
- [4] 上記条項以外は【車両規則総合規定】内の安全規定は満たしていること。



125スクータークラス 2024 年～

- [1] 4ST125cc、スクーター2ST100cc、4ST125cc以下の改造一般公道走行用の車輛
 - [2] 上記条項以外は【車両規則総合規定】内の安全規定は満たしていること。
- レギュレーションは継続的に変化していくこととする。

NSF100 HRC トロフィー

- [1] 2024 NSF100 HRC トロフィー車両規則に準ずる。

<https://www.honda.co.jp/HRC/event/nsf100hrc trophy/regulation/>

HRC GROM Cup

- [1] HRC GROM Cup 車両規則に準ずる。

https://www.honda.co.jp/HRC/event/hrcgromcup/regulation/pdf/2024_gromcup_regulation_240109.pdf

“2024 年「HRC GROM Cup」開催概要” <https://www.honda.co.jp/HRC/event/hrcgromcup/> のとおり、「アドバンスクラス」および「ルーキークラス」の2クラスを新設する。

74Daijiri (エキスパート/ビギナー/バンビーノ)

- [1] 74Daijiri 車両規則に準ずる。

http://www.sportslandikoma.jp/2024_74daijiri.pdf

シリーズチャンピオンには2024年度HRCワンメイクレース支援制度が適用される

翌年のTrophy Jr参戦を条件にNSF100用HRCパーツ10万円分支援

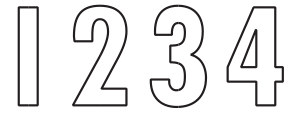
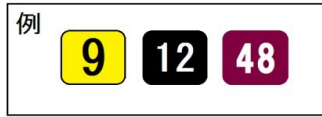
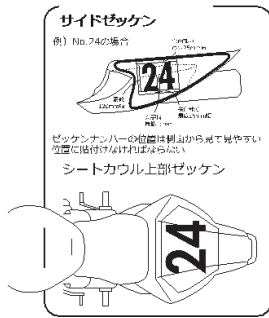
<https://www.honda.co.jp/HRC/news/2023/news04/>

特別規則および補足事項

- [1] 地域特有または試験開催クラスについては、主催団体による協議で認められたものを生駒ミニバイクチャンピオンシップ特別クラスとして開催する。
その他地域独自の新規クラスに関しては、生駒ミニバイクチャンピオンシップとしての後援ではなく、併催を認める。
- [2] レース終了後の分解車検については、年間レース数の30%以上について行うものとする。ただし、車検実施とカウントされるのは、1カテゴリーの入賞車両全車に対し、特定の部分（※注）を分解検査することを指す。※注→特定の部分とは違反となる改造が予想されるような箇所を言う。それ以外の箇所を建前的に分解検査した場合などは、車検の実施としてカウントしない。
- [3] 全ての生駒ミニバイクチャンピオンシップは分解車検（レース後車検）を実施する、しないに関わらず、そのレースで定められた入賞車両と入賞以下の1台を車両保管しなくてはならない。
また、車両保管は、当該クラス終了後20分以上で、明らかに立ち入りを制限できる場所でなければならない。
- [4] SPクラス以下の分解車検は、公開車検とする。ただし、立ち入り区域などの指定は、主催者の指示、決定に従うものとする。
- [5] M12クラス、およびSP12クラスに出場するNSR50およびNSRミニは、シリンダーヘッド、シリンダーヘッドガスケット、シリンダーの2点を【Mクラスエンジン関連-12】の組み合わせで使用しなくてはならない。
- [6] R33・R35クラスの方は、決勝レース中2回までは規定タイムを超えてもよい（3回目より賞典外となる）予選で規定タイムを超えた場合は、その週のタイムを無効とする。
- [7] 各ビギナークラスにて優勝したライダーは、次戦より同クラスへの参戦はできないものとする。

ゼッケン

- [1] ゼッケンの色については自由とする。但し、見やすい書体・色とし、蛍光色、淡い色、メタル調などの使用は禁止。主催者判断で改善を求める場合がある。
- [2] シーズンを通して固定ゼッケンとする。（但し主催者ならびに該当ライダーからの申し出によりゼッケン番号を変更する場合がある。）



ウエイト規定

- [1] M12、SP 両クラスにウエイト規制を導入する。走行終了後の状態にて合計重量（車両、ライダー、装備）が以下の規定重量を満たしていること。
- [2] ウエイトの搭載については車両のみ搭載を認める。使用するウエイトの取付けかたについては決して脱落のない様にボルトで強固に固定すること。
搭載位置については車両の安定性を考慮し可能なだけ車両の低い位置に取付けることが望ましい。取付けの為のステー、ブラケットの追加は可。
- [3] 脱落防止の為、事前車検を実施する。車検の際はスタッフに申告すること。
- [4] 脱落があった場合にはペナルティとして当該ヒート失格とする。
- [5] 74Daijuro クラスにて、50cc エンジンを搭載するライダーは、ライダー単体がフル装備で35kg に満たしているのが条件とする。ライダーにウエイトを搭載するのは禁止とする。

クラス	合計重量
M (2st) / SP-EXP (2st)	125kg
M (4st) / SP-EXP (4st)	128kg

装備規則

- [1] 下記の装備品は走行時、必ず着用すること。なお、装備品に関しては、MFJ 公認のものが望ましく、著しく損傷したものは主催者判断で使用を認めない場合がある。
①フルフェイスヘルメット、②レーシングスーツ、③レーシンググローブ、④レーシングブーツ、⑤脊椎パッド(スーツに装着されている物を使用する場合は不要)、
⑥ヘルメットリムーバー。
※②～④は革製もしくは、同等以上の強度を持つ物に限る。紐や金具留めは不可。
- [2] レース中の安全面を考慮し、チェストプロテクターの装着と18歳未満のライダーのエアバッグ装着を推奨する。

音量規則

- [1] 出場車両の排気音は、95.0dB 以下 (OPEN クラスは 99.0dB 以下) でなければならぬ。但し、レース終了後は+1dB まで認める。
- [2] 測定時の回転数は車検員の使用するタコメーターを使用し 7000 回転で測定する。
- [3] 測定方法は排気口から 0.5m のところに 45 度の角度で排気口中心と同じ高さに据える。スクーターは、駆動パーツを取り外した状態での測定が可能。

この規則は戦力バランスを考慮しシーズン中に変更される場合がある

※ 車両規則に関して不明点や確認がある場合は、必ず主催者に連絡をして確認を取ること。